

松野町文化的景観調査報告書

一目黒の農山村景観

令和3年3月

愛媛県松野町教育委員会



A 直線的な目黒川流域に展開する目黒集落（目黒鳥屋から）



B 目黒地区（中央2・国木谷・西ノ川・上目黒）と鬼ヶ城山系（宇和島市方面）



C 目黒地区（中央１・下組）と高知県四万十市西土佐大宮方面



D 江戸時代初期の景観を今に伝える目黒山形（木彫りの地形模型）



E 目黒川から水田に直接引水するため発達した江戸時代以来の水路



F 水田と目黒川の低温水を温める工夫「ウラムソ」



G 滑床から吹き下ろす強い季節風（ニシカゼ）から家屋を守るカゼガキ（防風石垣）



H 屋敷配置「山裾型」と「平坦部型」



I 目黒全域を巡行する牛鬼と民家



J 目黒地域の領域意識・境界意識をうかがうことができるわら草履と木札



K 伝統芸能「チャガカン（念仏太鼓）」の継承と目黒住民の寄り合いの場の建徳寺



L 住民主体の景観保全活動「蛍の畦道」ライトアップ

序

“この森にあそび この森に学びて あめつちの 心に近づかむ”

この言葉は、松野町初代町長の岡田倉太郎氏が滑床の豊かな美しい自然を大切に保護し、この山や溪谷を遊びと学びの場所にしようという想いで残した言葉です。松野町は「森の国」をキャッチフレーズにまちづくりを推進しておりますが、この「森の国」とは滑床を含む目黒地域がモデルになったと言っても過言ではありません。

松野町は、町域の約84%が山林原野で占められており、「森」とのかかわりを抜きに町の歴史文化を語ることはできません。そこで松野町では「第1次 松野町文化財保存活用地域計画」を作成し、「森」をキーワードに歴史文化を活かしたまちづくりを推進することとしました。

今回の事業では、重点区域として「目黒の農山村景観」を選出し、その性格や価値の究明を図ることを目的に調査を実施しました。

この調査成果が、「目黒らしさ」を再認識する機会となり、まちづくりや郷土の歴史教育に広く活用されることを願うとともに、町民一丸となったさらなる景観保存・継承の機運となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査及び本書の編集にあたり、ご指導とご協力いただきました関係者の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、今後も引き続いてご厚情賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

松野町長 坂 本 浩

例 言

- 1 本書は、重要文化的景観の選定を目的に、国宝重要文化財等保存整備費補助金を受けて実施した愛媛県松野町文化的景観保護推進事業の調査報告書である。
- 2 本書は、本文・挿図・表・関連資料・写真図版からなる。
- 3 本調査は、重要文化的景観の選定を目的とした重点調査地域の価値について調査研究したものである。

- 4 調査は松野町が主体となって実施し、調査組織は以下のとおりである。

調査主体	松野町長	坂本 浩
事務組織	松野町教育委員会 教育長	森田 位（～平成 30 年 10 月）
	同	三好 秀二（平成 30 年 10 月～）
	事務局 教育課長	井上 靖
	教育課課長補佐	高山 剛
	教育課主事	亀澤 一平

松野町の文化的景観調査指導委員会

委員長	愛媛大学名誉教授	下條 信行
副委員長	京都府立大学文学部准教授	上杉 和央
委員	愛媛大学名誉教授	江崎 次夫
委員	愛媛大学社会共創学部准教授	井口 梓
委員	地域代表	矢野 義昌
委員	地域代表	岡田 春喜（～平成 31 年 1 月）
委員	地域代表	竹内 義富（平成 31 年 1 月～）
オブザーバー	文化庁文化財部記念物課	市原富士夫
	文化庁文化財第二課	下間久美子
	愛媛県教育委員会事務局	
	文化財保護課	石岡ひとみ
	同	兵頭 勲

松野町の文化的景観調査部会

部会員	京都府立大学文学部准教授	上杉 和央
部会員	京都府立大学文学部准教授	東 昇
部会員	滋賀県立琵琶湖博物館学芸員	島本 多敬
部会員	特定非営利活動法人西条自然学校	山本 貴仁
部会員	松山東雲短期大学名誉教授	松井 宏光
部会員	愛媛大学社会共創学部准教授	渡邊 敬逸
部会員	愛媛大学社会共創学部准教授	井口 梓
部会員	香川大学創造工学部助教	釜床美也子
部会員	日本民俗学会	宮本 春樹

- 5 本調査に係わる資料は松野町教育委員会で保管している。

- 6 本書の執筆は以下のとおり分担し、編集は竹内祥一郎（京都府立大学大学院）・上杉和央・亀澤一平が行った。
なお、名前の末尾は節の番号である。

- 第1章 松野町教育委員会事務局
- 第2章 第1節 松野町教育委員会事務局
- 第2節 松野町教育委員会事務局（1）～（3）、竹内祥一郎（4）
- 第3章 第1節 上杉和央
- 第2節 松野町教育委員会事務局
- 第3節 松野町教育委員会事務局（1）、松井宏光（2）～（6）
- 第4節 松井宏光・山本貴仁（1）～（6）（8）（9）、松野町教育委員会事務局（7）
- 第5節 上杉和央・松野町教育委員会事務局
- 第4章 第1節 宮本春樹（1）（2）、松野町教育委員会事務局（3）（4）
- 第2節 宮本春樹（1）（2）（4）、東昇（3）（5）（6）
- 第3節 竹内祥一郎・松野町教育委員会事務局
- 第5章 第1節 宮本春樹
- 第2節 島本多敬
- 第3節 宮本春樹
- 第3節 上杉和央・松野町教育委員会事務局
- 第6章 第1節 竹内祥一郎（1）、釜床美也子（2）（3）
- 第2節 釜床美也子・松野町教育委員会事務局
- 第3節 竹内祥一郎・松野町教育委員会事務局
- 第7章 第1節 宮本春樹（1）（2）、松野町教育委員会事務局（3）
- 第2節 松野町教育委員会事務局
- 第3節 宮本春樹
- 第4節 上杉和央・松野町教育委員会事務局
- 第8章 第1節 松野町教育委員会事務局
- 第2節 宮本春樹（1）（2）、松野町教育委員会事務局（3）（4）
- 第3節 宮本春樹（1）、松野町教育委員会事務局（2）～（5）
- 第4節 宮本春樹・松野町教育委員会事務局
- 第5節 上杉和央・松野町教育委員会事務局
- 第9章 松野町教育委員会事務局
- 第10章 上杉和央、松野町教育委員会事務局

【図版作成協力者】 斧香菜子、竹内祥一郎

- 7 調査及び報告の作成にあたり下記の方々には特別にご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる。
板尾喜雄、岩田茂樹、岡本渉、恩田勝也、芝明廣、芝美紀、高瀬哲郎、友岡純、松崎寛史、毛利伸彦、毛利真由美、
脇本盛市、町内大字目黒のみなさん
※順不同、敬称略

- 8 本書における用語の定義は以下のとおりである。

目黒地区：松野町大字目黒の範囲

目黒地域・目黒：滑床を含む目黒一帯の範囲

なお、江戸時代などの記述においては当時の表現（目黒村など）に従っている場合がある。

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

第1章 調査の経過と目的

- 第1節 調査に至る経緯と目的…………… 3
- 第2節 事業の経過と体制…………… 4

第2章 地域の概況

- 第1節 松野町の概況…………… 7
- 第2節 松野町のなかの目黒地域……………18

第3章 目黒地域の自然環境

- 第1節 地形・地質・水文……………23
- 第2節 気候・気象……………25
- 第3節 植生とその変遷……………27
- 第4節 生物の特徴……………37
- 第5節 自然基盤と目黒らしさ……………66

第4章 目黒地域の歴史文化

- 第1節 予土国境の歴史風土……………71
- 第2節 近世目黒村の展開……………86
- 第3節 歴史の育んだ目黒らしさ…………… 106

第5章 目黒山形に描かれた世界

- 第1節 山論の経過と裁決……………109
- 第2節 目黒山形と野帳……………115
- 第3節 目黒山形関係資料にみる目黒……………125
- 第4節 目黒山形の時代と現在の景観……………131

第6章 目黒地域の風土に合せた住まい方

第1節	風土に即した住まい方	137
第2節	風との付き合い方	178
第3節	住まい方にみる目黒らしさ	186

第7章 おいしい「目黒米」をつくる工夫

第1節	目黒川を利用するために発達した灌漑施設	189
第2節	目黒川の冷たい水を活かす知恵	194
第3節	目黒の米づくり	196
第4節	風土を活かした農業	204

第8章 目黒地域の暮らしと生活文化

第1節	清流目黒川が育んだ生活文化	207
第2節	恵まれた森林資源と林業	217
第3節	里を活かした生活及び生業	229
第4節	目黒銀座と他地域との交流	244
第5節	景観に刻まれた生活文化	247

第9章 住民による保全活動と景観認知

第1節	地域の活動	251
第2節	文化的景観理解へ向けた取り組み	257

第10章 文化的景観の本質的価値と景観構成要素

第1節	自然・歴史・生活及び生業からとらえた目黒地域	263
第2節	景観単位と景観構成要素	266
第3節	目黒地域の文化的景観としての特性	275
第4節	まとめ	277

